

Covid-19に対するプラセンタ療法の医療的知見について

吉祥寺中医クリニック 院長

長瀬 眞彦 (ながせ まひこ)

座長：北野原 正高 (きたのはら女性クリニック・院長)

稗田 圭一郎 ((医)五常会 鶴巻メンタルクリニック・院長)

略歴：

1969年 生まれ
1994年 順天堂大学医学部卒業 JR東京総合病院内科研修
1996年 順天堂大学医学部附属順天堂医院放射線科入局
1999年 長白会タニククリニック 副院長
2001年 鉄砲洲診療所 副院長
2006年 吉祥寺中医クリニック院長
2017年 順天堂大学医学部 医学教育研究室

専門分野：

東洋医学、一般内科

資格：

日本東方医学会中医専門医、日本東洋医学会漢方専門医・指導医

役職：

一般財団法人東方医療振興財団 理事長、日本東方医学会 会長、
日本胎盤臨床医学会 理事長、杏林東洋医学研究会 世話人、
世界中医薬連合会 理事



2019年12月、中国で肺炎患者の集団発生が報告された後、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)感染症は世界に拡大し、WHOは公衆衛生上の緊急事態を宣言した。日本国内では、1月16日に初めて患者が報告され、2月1日に指定感染症に指定された。¹⁾パンデミックが継続する中で、プラセンタ療法に出来ることはあるだろうか？

すでに基礎研究では、その可能性が示唆される結果が報告されている。LPS(リポポリサッカライド)をマウスの気管内に投与し、肺の急性炎症を惹起させた後ヒト胎盤エキス注射製剤を投与したところ炎症が抑えられたという報告や²⁾、まだ論文化されていないが、Vero細胞に新型コロナウイルスを感染させた実験において、ラエンネックによる抗ウイルス効果を確認した報告、さらには、ヒトと呼吸器の構造が最も似ているフェレット(イタチ)を使い、ラエンネックを1回当たり4mLずつ2日間隔で計4回静脈内投与した実験群において、新型コロナウイルス感染4日目から発熱減少効果が現れたという報告がある。³⁾

また、新型コロナウイルス感染症の後遺症として、倦怠感などが挙げられており⁴⁾病態は異なる可能性があるものの、プラセンタ療法の抗疲労効果は日常診療でしばしば経験されており、RCTで行なった臨床試験においても、ヒト胎盤エキス注射製剤が慢性疲労症候群に対して有効であったという報告などもあり⁵⁾、新型コロナウイルス感染症の後遺症の軽減に対してもプラセンタ療法が有効である可能性も示唆される。

以上のような文献的考察を元に、経験した新型コロナウイルス感染症の症例を踏まえてCovid-19に対するプラセンタ療法の医療的知見についてお話させて頂く。

1)新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き・第4版 2)The American Journal of Chinese Medicine, Vol. 46, No. 4, 801-817
3) <https://www.koreabiomed.com/news/articleView.html?idxno=8238> 4)JAMA. 2020;324(6):603-605. doi:10.1001/jama.2020.12603
5)Biol. Pharm. Bull. 39, 674-679 (2016)